

社会医療法人 耳鼻咽喉科麻生北見病院 CT 検査室紹介

皆様こんにちは。耳鼻咽喉科麻生北見病院の奥村と申します。今回当院の CT 検査室紹介ということで、当院 CT について病院の特色も踏まえつつご紹介させていただきます。

当院は、タマネギやハッカで有名な北見市にて、耳鼻咽喉科および口腔外科を標榜し、札幌の本院である麻生病院（以下本院）と同様に年中無休・夜間診療を行っております。病院周辺には、『北見メッセ』と呼ばれるショッピングモールの他、スーパーや家電量販店、衣料品店、ファストフード店などが立ち並び、病院受診のあとはお食事やショッピングという患者様も多いのではないのでしょうか？

さて、当院放射線科は診療放射線技師 3 名と本院からの出張応援で年中無休の撮影業務に対応しています。CT 装置は、0.35 秒/回転仕様（オプション）の Aquilion™/CXL Edition を使用していますが、心臓を撮影するわけでもないのに 0.35 秒/回転？と思う方もいらっしゃるかと思います。耳鼻咽喉科は診療科の特性上、小児の中耳炎・副鼻腔炎での受診も多いこともあり、CT を用いた小児ルーチン撮影を行っているのですが、小児は特に体動の影響によるアーチファクト対策が重要となることと、被ばく低減を考慮して 0.35 秒/回転を使用し、極低線量での CT 撮影を行っています。尚、小児中耳・副鼻腔 CT 撮影の詳細については、近日日本放射線技術学会から発刊予定である『X 線 CT 撮影における標準化～ガイドライン GuLACTIC 2015～』の Appendix をご参照ください。

また、CT 室の内装は天井が空模様、壁はミッキー&ミニーの壁紙を、床はカラフルなフロアタイルを使用しています。これらは小児に限らず撮影に臨むすべての患者様の恐怖心を少しでも和らげられたら…という思いからこのような内装としました。



図 1 麻生北見病院 CT 室

当院ではグループ診療を行っており、医師も札幌ー北見間を往来し診療にあたっています。我々放射線科においても診療画像の高い質の共通化を図るために、応援出張などの人事の往来はもちろんのこと、両病院においてCT装置などは同一機種を使用しています。

平成27年4月1日より本院が新築移転、新病院での診療がスタートし、さらに5月には新たに口腔外科の開設を予定しています。本院放射線科スタッフも北見出張の際に同一機種で撮影しているため、新規開設の際にもスムーズに対応できることと思います。

当院では耳鼻咽喉科だけではなく、口腔外科においても、CT装置は今や無くてはならない診断機器となっています。当院で行っている第三大臼歯（親知らず）の抜歯や歯牙移植、また顎骨嚢胞・腫瘍などの安全な治療には、MPRや3Dを使用し、病変部の形態を正確に把握することが必要不可欠です。歯牙のMPRは拡大して作成するため、1症例につき上下左右や臼歯部・前歯部といった複数ボリュームの処理が必要な場合もあり、なかなかの手間と時間を要します。口腔外科は予約制でCT撮影は多い時で10数件/日の撮影をしますが、東芝のMPRソフトは非常に使い勝手がよいため、外来中心である耳鼻咽喉科のCT撮影も行いつつ、多数のMPR画像も即時提供することが可能となっています。

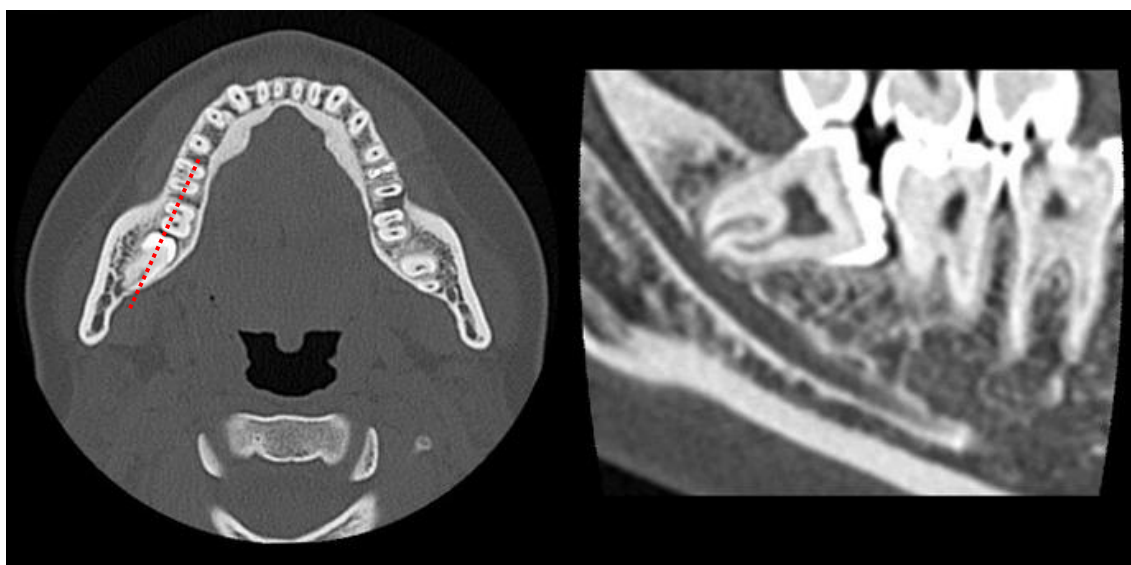


図2 (左：下顎CT Axial 右：右下顎臼歯部 Sagittal)

その他にも上顎歯の根尖病巣が原因である『歯性上顎洞炎』も比較的多く見られる疾患の一つです。微小な根尖病巣が上顎洞炎の原因となっている場合も多く、原因歯の特定、診断には MPR が大変有用となります。歯性上顎洞炎は耳鼻咽喉科・口腔外科にまたがる疾患であり、当院では両科が連携して診断および治療を行っています。

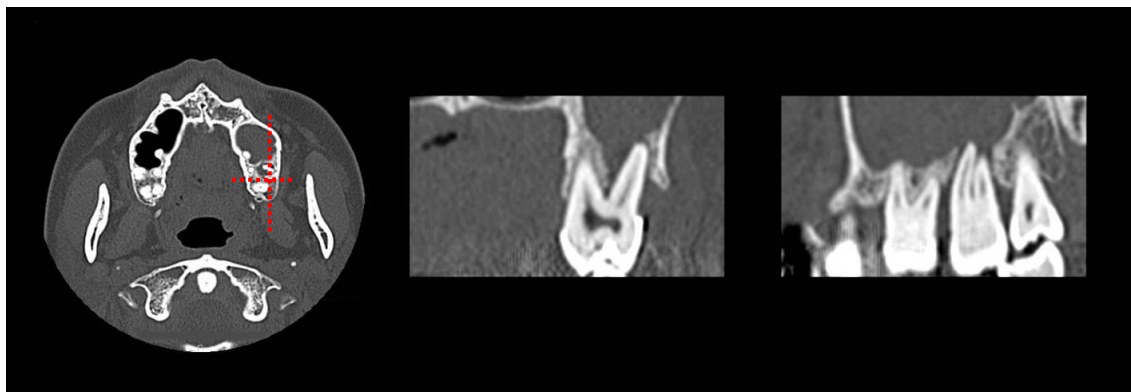


図3 (左：上顎CT Axial 中：左上顎臼歯部 Coronal 右：左上顎臼歯部 Sagittal)

口腔外科の CT 撮影では、治療歯のクラウンに使用されている金属からのメタルアーチファクトが問題となりますが、東芝メディカルシステムズ社の開発したメタルアーチファクト低減技術である SEMAR (Single Energy Metal Artifact Reduction) が効果的であると聞きました。

今のところ当院 CT では使用できないようですが、是非使用してみたい技術です。

当院のた・め・に・開発された技術といっても過言ではないと思いますので…東芝さん宜しくお願い致します！ (笑)

以上、簡単ではございますが麻生北見病院の CT 室についてご紹介させていただきました。